



特集 きずなで支える地域の暮らし

のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo

登別手話の会による赤い羽根共同募金の街頭募金の様子です。
10月1日の共同募金の運動の開始に合わせ、イオン登別店で募金の呼びかけを行いました。

CONTENTS

- P2 特集 きずなで支える地域の暮らし
- P3 歳末たすけあい募金が始まります
- P4 きずなとともに創る「地域共生社会」
社協寄付金・寄付物品



2024
11.01 No. 166

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
 [事務局] 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センターしんた21内
 [TEL] 0143-88-0860
 [FAX] 0143-88-4546
 [mail] info@kizuna-shakyo.jp
 [HP] https://kizuna-shakyo.jp
 [Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

きずなで支える地域の暮らし



登別市社協では、第4期登別市地域福祉実践計画（愛称：きずな計画）に基づき、住民主体による福祉のまちづくりを通じ、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らし続けることができるよう、様々な事業に取り組んでいます。

今回の特集では、これまで進めてきたきずな活動のなかでも現在特に広がりを見せている活動についてご紹介します。

■ふれあい買い物モデル事業がスタートしました

登別小学校区きずな推進委員会では、9月4日から、社会福祉法人ホープのぼりべつ東町ふれあいホームとの協働により、登別温泉紅葉谷町内会で一人暮らしをしている高齢者を対象とした「ふれあい買い物モデル事業を開始しました。

登別小学校区では、第3期きずな計画において「近隣住民同士でのちょっとした生活支援」を目標に掲げており、車がなく外出に不便を抱える高齢者への買い物支援の実施に向け、対象地区の高齢者へアンケート調査を行うなど、地域の想いと実情を確認しながら事業実施の方法について検討を重ねてきました。

具体的には、買い物支援の頻度や移動手段、買い物中の手助けの方法などにつ



いて協議し、よりニーズに合った買い物支援サービスが提供できるよう、高齢者の生活を支援合う地域づくりを目指した「きずなを学び合う会」を開催し、買い物支援の在り方について考えました。

また、校区にある社会福祉法人にも協力をいただき、地域の課題について話し合い、特に移動支援の必要性が高い登別温泉地区をモデルとして指定することとなりました。

モデル事業では、毎週水曜日にはのぼりべつ東町ふれあいホームの車両を使用して自宅前からスーパーまで送迎し、施設に通所している障がい当事者による荷物運びのお手伝いにより、高齢者の生活支援と障がい者の社会参加、法人の地域貢献が一体となって取り組んでいます。

モデル事業は2025年3月まで実施され、その後は本格的な実施に向け課題を整理し、さらなるきずなで支えるまちづくりを進めます。

■鍵預かりサービス事業、ついに全校区網羅！

鍵預かりサービス事業は、市内に暮らししている一人暮らし高齢者や認知症、障がいがある方の孤立死の予防を目的としています。

登別市社協と協定を結んだ各小学校区内の医療法人や社会福祉法人、福祉事業所等が事前に自宅の鍵を保管し、サービス利用者の安否確認が必要だと思われる時に、事業協力員が施設に保管している鍵を取りに行き、警察や救急の立会いのもと鍵を開け、安否の確認をすることができる事業です。

9月26日には、医療法人社団倭会 認知症対応型グループホームしづく（幌別西小学校区）及び株式会社きずな（幌別中学校区及び富岸小学校区）と協定締結式を行いました。

平成29年度より市内全校区での事業展開を目指して進め、今回の締結をもって全校区網羅することができました。現在市内では、7校区8拠点で運営しています。

今後関係機関のネットワークを強化しながら、安心して暮らせるまちづくりを目指します。



▲株式会社きずなとの協定締結式の様子。富岸小学校では2施設と協定を結び、より迅速な対応が可能となりました。

歳末たすけあい募金運動が12月からはじまります！

歳末たすけあい募金運動

毎年12月に共同募金運動の一環として、新たな年を迎える時期に支援を必要としている人たちが安心して暮らすことができるよう、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員等の関係機関・団体の協力のもと実施している募金運動です。

お寄せいただく募金は、すべて登別の福祉活動に活用されます。

募金の使いみち

◆きずなのまちづくり助成事業

市民ボランティア団体等が行う福祉活動を応援するために。

◆ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等の生きがいと居場所づくりを進めるために。

◆小地域ネットワーク活動推進事業

町内会による見守り・支え合い活動を広げるために。 など

登別市限定

ピンバッジ・シール取り扱い中！

登別市限定のピンバッジとピンバッジコンテスト受賞作品のシール集を今年も取扱いしています。デザインは日本工学院北海道専門学校のご協力によりお願いしました。

数に限りがございますので、お早めにお近くの取扱い場所、又は事務局までお問合せ下さい。

街頭募金へのご協力ありがとうございました！

10月から赤い羽根共同募金運動が始まり12団体の協力のもと市内7カ所で、街頭募金を行いました。

【協力団体】おはなしりぼん、富浜町内会婦人部、日本ボーイスカウト登別第一団、登別温泉町内会婦人部、登別更生保護女性会、登別手話の会、登別市老人クラブ連合会、登別聴覚障がい者協会、登別ノルディックウォーキング愛好会、登別朗読ボランティアの会、立正佼成会室蘭教会東支部、登別肢体不自由児者父母の会

【実施協力場所】イオン登別店、コープさっぽろしがイースト店、コープさっぽろのぼりべつ東店、スーパーラッキー、登別中央ショッピングセンターアーニス、登別パークサービスタワー、ホームストア幌別店
(すべて順不同・敬称略)



500円以上の募金で1つ贈呈



200円以上の募金で1枚贈呈



取扱い場所

- ・登別パークサービスセンター（登別温泉町）
- ・登別伊達時代村（中登別町）
- ・登別中央ショッピングセンターアーニス（中央町）
- ・登別市民会館（富士町）
- ・登別市社会福祉協議会（片倉町）

法人・企業等の皆さまへ

寄付金付き商品・企画で応援！

寄付金付き商品・企画を通して地域福祉に貢献する取り組みです。本業を活かした商品の開発や、チャリティ企画等、売上の一部を赤い羽根共同募金へご寄付いただくことで、企業・商品のPRが地域貢献へつながります。

例えば、企業と赤い羽根共同募金とのコラボレーションした寄付金付きグッズの開発やイベントの実施など、応援して下さる企業や法人、店舗等の皆さま、ご連絡をお待ちしています。

赤い羽根募金付き自動販売機設置で応援！

社内外や店舗前等に「赤い羽根募金付き自動販売機」を設置することで、社員やお客様が購入する飲料の売り上げの一部が寄付されるしくみです。

設置場所の提供や月々の電気代はご負担いただきませんが、自動販売機の設置はすべて無料で、管理や商品の補充等の対応はすべて販売業者が行います。なお、新規設置だけでなく、すでに設置されている自動販売機を募金付き自動販売機に移行することが可能です！



新たに設置
いただきました！
ご協力ありがとうございました

- ・月とらいおん様
- ・福来軒様
- ・(株)ピケンワーク様
- ・遠田建設(株)様
- ・(株)和田工務店様

登別市共同募金委員会（登別市社協内）
平日9時から17時半 電話：(88-10860)

「きずな」ともに創る 「地域共生社会」

登別市社協では、第4期きずな計画に基づき「支え手」「受け手」という関係ではなく住民一人ひとりが参画し、多様性を認め合いながら暮らしと生きがいを地域とともに創る「地域共生社会のまちづくり」に取り組んでいます。

今回は多様化したニーズと向き合い、地域で実践している人の想いを知ることが目的に開催した「きずなシンポジウム」と地域共生社会を支える人材を養成することを目的とした「ボランティアセミナー」について紹介します。

きずなシンポジウム きずなを語り強める

「子どもを紡ぐ」ところ」

8月8日、登別市民会館において子どもに関わる取り組みをされている方の実践発表等を踏まえ、登別市におけるこれからの住民主体の福祉活動の姿をとともに考え進めていくためきずなシンポジウムを開催しました。

登別中央福音教会主任牧師の高橋渉さんからは、教会での活動を通じ、子ども一人ひとりの存在を大切にすることを理念を持ちながら子どもにとって安心できる居場所づくりをしていることが話されました。成田山瀧泉寺住職の山瀬珠香さんは、里親である自身の経験とお寺と地域の関係性を活かした子どもの自立支援をテーマに、社会とつながり孤立を防ぎ、周囲



との違いに声を出せず苦しむのではなく、「自分はそのままでいいのだ」と当たり前に思える環境や大人が心に余裕を持てるような居場所づくりの大切さについて話されました。最後に登別小学校区きずな推進委員会リーダーの中原義勝さんからは、校区きずな計画の実践について、子育て中の親子が集える居場所づくりのため「子育てサロンとくます」を立ち上げた当時の想いやごも食堂の運営について話されました。

全体のコーディネーターを務めたきずな大使の鳥居一頼さんからは、それぞれの発表を振り返りながら、子どもが自身で育っていく力を周囲の大人がどうサポートしていくかが大事であると話されました。

共に生きる力を育む

ボランティアセミナーを開催しました

10月7日、鉄南ふれあいセンターにおいて住民一人ひとりの偏見や差別、社会的排除の意識を変えていくことや自分らしく「地域で共に生きる」とは何かを考える研修を行いました。

このセミナーは厚生労働省のモデル事業として登別市社協が指定を受けて開催しました。

研修は市内福祉団体や民生委員児童委員が参加し、ロールプレイ形式で実施され、相手の気持ちになりきることで新たな気づきと学びを得ることができました。



寄付者のご紹介 (2024年8月1日～2024年9月30日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付の目的
2024.08.01	匿名	1,000	社会福祉のために
2024.08.07	石坂光汰朗	2,475	社会福祉のために
2024.08.21	関 ユミ	10,000	社会福祉のために
2024.09.04	わしこうD愛好会	10,000	ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2024.09.19	佐藤 政勝	50,000	社会福祉のために

愛の小箱等設置協力者のご紹介 (2024年8月1日～2024年9月30日)

(敬称略/単位:円)

設置協力者名	期間内寄付金額	累計寄付金額	種別
登別中央ショッピングセンター アーニス	2,400	381,798	愛の小箱・ピンバッジガチャ
ふれあいの店	600	656,163	愛の小箱・ピンバッジガチャ

※寄付物品なし

上記期間にお届けいただいた団体等のみ掲載しています。